

平成29年度 第9回（震災後85回）

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「 地域支え合い協議体について

～情報共有とさらなる課題解決に向けて～ 」

日 時：平成30年2月16日(金) 13:30～15:30

場 所：陸前高田市役所4号棟第6会議室

参 加：82名18団体

資 料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

1 挨拶（陸前高田市民生部保健課包括支援係長 佐藤 咲恵）

少子高齢化の状況の中では、地域の支え合いが重要である。本日は地域の支え合いの担い手となる暮らし支え隊の養成講座受講者のみなさま、民生委員のみなさま、コミュニティ推進協議会の方々を初めとした多くの市民の皆様に参加して頂いている。

この後、実際の地域での取組みも紹介されるので、参加者の皆様には是非参考にしていただきたい。

2 内容

(1) 未来図会議が目指してきたこと

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也

(2) 改めて地域支え合い協議体について

陸前高田市民生部保健課 地域包括支援センター

包括支援係長 佐藤咲恵

(3) 平成29年度の取り組みからみえてきた地域での困りごとについて

陸前高田市民生部保健課 地域包括支援センター

生活支援コーディネーター 金野康子

(4) 各町の地域支え合い協議体の実際

NPO法人 陸前高田まちづくり協働センター 黄川田美和氏

(5) 参加者のみなさまと「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒ テーマ：「地域での困りごと、どう、つないでいますか？」

(1) 未来図会議が目指してきたこと

（陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー岩室紳也）

ノーマライゼーションということばのいらないまちづくりは、一人ひとりが自分の障がい等、いろいろなことを意識することなく過ごせる、誰もが暮らしやすい、住みやすいまちをつくること。

そのようなまちづくりのために、陸前高田市健康増進計画では「はまって かだつて つながつて～みんなで輝く陸前高田～」というスローガンを掲げ、それを未来図会議で推進している。

この言葉を理解するには、「絆」という漢字の読み方にきずな以外にほだしという読み方もあることを理解する必要である。ほだしとは、手かせ足かせ束縛、迷惑の意味である。ほだしを感じつつもつながりを継続するには「お互いさま」の意識が生まれれば、自殺も減り、死亡率も下がり、まちづくりが推進されるソーシャルキャピタルの情勢が進むことになる。

(2) 改めて地域支え合い協議体について

陸前高田市民生部保健課 地域包括支援センター

包括支援係長 佐藤咲恵

岩手県人口動態を見ると、高齢化率、要支援者数、要介護の人は増えており、若年世代は減っている。このような人口構造の変化から、これまで高齢者を若い世代が支えていたが、それも困難な時代へと向かっている。

それに伴い、介護施設では人員が不足し、今まで通りのサービスを提供するのが難しい。今後は健康寿命を延ばして、元気な高齢者を増やすだけでなく、その人たちが地域を支える仕組みづくりが重要である。今後は日本全国一律ではなく地域の実情に応じたサービスを確保することが求められている。

具体的には社会資源がどの程度あるか、地域の住民同士のつながりがどれだけあるか。なかでも、地域コミュニティの形成のためにはまってかだることが重要となる。つながりがあり居場所が出来れば役割が生まれ、生きがいが出る。

地域支え合い協議体の目的は地域住民が支え合い、地域の課題や支え合いについて課題を話し合える地域体制の構築を目指している。

(3) 平成29年度の取り組みからみえてきた地域での困りごとについて

陸前高田市民生部保健課 地域包括支援センター

生活支援コーディネーター 金野康子

生活支援コーディネーターとは高齢者とそれを支える人や仕組みを作ることを応援する仕事である。

実際に人と人がつながるために必要とされているものの例を挙げると公

民館の椅子が挙げられる。座布団では高齢者が立ち上がるのも大変。また、同時に中心となる人も必要である。住民は、コミセンで集まりがあるのは知っているが、移動手段がない。一例として、横田町では移動手段についての勉強会を開催している。地域によって実情は違うが、自分の地域の問題を話し合っている。

(4) 各町の地域支え合い協議体の実際

NPO法人 陸前高田まちづくり協働センター 黄川田美和氏

各町の地域支え合い協議体の実際について

①横田地区 及川会長

地域支え合い協議体については、「何を今さら」というのが正直な感想
横田のようなもともと支え合いがある場所で、震災による変化も比較的少ない場所ではあまり必要のない部分もある。
横田町では今までの支え合い活動を継続するために制度を活用していく。
そのためには課題について継続して勉強会を開くことも大切である。

②竹駒コミセン 大坂会長

地域支え合い協議体については、「何をやるんだ」「何をやらなければいけないんだ」という強迫観念があった。
竹駒地区では今まで行われてきた支え合いの継続の必要性と無理しないことが大事であることが強調された。
年間行事等、元々やってきたことがある。特にも定例会は重要で、多くの住民が月 1 回は出席する仕掛けになっており、顔を合わせることができる。今後は今までやっていることをやりながら、他地区のやっていることを参考に、新たな行事、イベントを実施しても良いのではと考えている。
地域の行事の忙しい時期を避けて情報交換等ができるようになると良い。

③生出地区コミセン 菅野会長 菅野事務局長

地域支え合い構築事業については既に、うるおいと安らぎ事業や一本松クラブがあり、高齢者が忙しい中で、今さらなんでやる必要があるのか疑問だった。各役員に集まってもらいその場で話をし終わりでなく、支え合いマップを作成し、支え合いを見える化した。
生出で掲げられたスローガンは、「みんなで支え、みんなに支えられ～若者の夢を力に～」である。生出では、若者が集まる場所を作りたい。
支え合いは今までもやって来たし、これからもやっていく

④ 黄川田氏

どの地域でも支え合い活動は行われて来ていたが、地域支え合い協議体は支え合いについての話し合いの場所をあらためて作ったことで、地域

でお互いを支えあうことの意義とともに、未来図会議の場で各地域がお互いの活動を確認しあうことでさらに活動が活発化すると思われた。

(5) 参加者のみなさまと「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒ テーマ：「地域での困りごと、どう、つないでいますか？」

資料：みんなではまかだ 参照

3 その他の連絡・アナウンス

・紙芝居風「落とし絵」：「命のきんちやくぶくろ」

読書ボランティア有志のみなさん

話者：吉田千壽子さん

著者：吉田昌代さん

絵：小林チトセさん

発表：磐井律子さん

⇒東日本大震災で経験したことを基に障害があってもなくてもお互いさまで声をかけあい生きていけるまちを改めて目指して、保健医療福祉関係者だけでなく、多くの市民、次世代の子どもたちに伝えていきたい。

◆次回（第86回）：平成30年3月23日（金）13：30～15：30

メインテーマ：はまかだスポットガイドについて

会場：陸前高田市コミュニティホール 2階大会議室